

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
 Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
 Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
 【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
 Tel.+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658

<http://www.facebook.com/NPO.JYFA> [@jyfa](#)

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野惠蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第44号

会報

発行日 2013年(平成25年)2月15日



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

これまで13年間、皆さまのご支持と励ましのお陰で、明るい教室で勉強する子どもたちの教え切れないほどの幸せそうな笑顔を目にし、山奥から広い世界へと飛び出していった子どもたちの知らせを耳にすることができます。

昨年は両国の関係に波風がたち、日中友好を願う私たちにとってはとても残念でした。国と国との関係はうまくいかないこともあるでしょう。でも、私は思うのです。どんな時代、どんな国でも「未来が希望を育てる」という信念を貫くべきだと。この10年余り、雲南の子どもたちが教育を受けてたくましくなり、やがて夢に向かって奮闘する若者に成長していくのを見てきたことで、私はそう確信し

ました。この小さな協会に、国を左右するような力はありませんが、この信念があれば、私たちの小さな力は愛と希望に形をかえ、次の世代に伝わっていくことでしょう。

協会は今年もこの信念を持って、子どもたちの未来のために活動してまいります。

どうか皆様、引き続き日本雲南聯誼協会をよろしくお願いいたします。

認定NPO法人 日本雲南聯誼協会 理事長 初鹿野惠蘭

東日本大震災支援交流プロジェクト 第4弾

いわき市立永崎小学校



1月29日、東日本大震災支援金と雲南省の協会支援校の子どもたちが描いてくれた激励メッセージを届けるため、福島県いわき市立永崎小学校(勝倉孝行校長)を訪問しました。当初は15日に伺う予定でしたが、前日の降雪で交通マヒに陥り、2週間遅れの実現となりました。

永崎小学校は小名浜港から海沿いに北へ10分程の、太平洋に面した小さな学校です。夏には海水浴場となる海岸から学校までは、直線距離にして200mほど近さ。今年開校140周年を迎え、現在は全校児童250名余りが学んでいます。

約束の時間に学校へ到着すると、大槻貴教頭先生が駐車場に出て来てくれ、すぐに案内された校長室では、校長先生とともに、全校児童代表の5年生3人と担任先生が少し緊張しながらも笑顔で迎えてくれました。早速、「雲南省に暮らす少数民族の小学生が永崎小学校のみなさんに“加油！”と言っています。“加油”は日本語で“がんばれ！”の意味です」と激励メッセージを手渡すと、「“加油”って言ふんですか」とすぐに見えてくれ、メッセージに見入っていました。将来の夢などについて話しを聞いた後、元気な声で「ありがとうございました」と礼儀正しくお辞儀をして教室へ戻って行きました。

校長先生、教頭先生は被災当時の写真を示しながら話してくれました。3月11日の地震発生時、学童保育に参

加していた一部の児童を除いて、ほとんどの生徒は下校し、先生方は校舎2階の職員室にいました。そこに、津波警報が飛び込んで来て、先生方は学童保育の児童を引率して大急ぎで学校裏手の小山へ避難。その後、学校の目の前を流れる小川を遡って津波が押し寄せ、海水は地上3m程の高さにまで吹き上がる勢いだったといいます。小川沿いに設置されているフェンスが学校側に大きく歪んでいる姿が津波の凄まじさを想像させます。

津波はあっと言う間に校舎1階の床上120cmほどを完全に飲み込みました。その力は、外に停めてあった校長先生の車を廊下の奥にまで押し込むほどで、教室も事務室も校長室もメチャメチャに破壊されました。幸いなことに、児童も学校関係者も全員無事に逃げ伸びることができましたが、地域のお年寄り数人が犠牲となりました。

翌日から先生方は児童の安否確認、瓦礫の撤去、教室の復元に追われました。その結果、学校はなんとか元の姿に戻りましたが、子どもたちが目と耳と肌で感じた地震と津波の恐怖は計り知ることできません。今でも「余震があると怯える児童がいます」と教頭先生。毎週カウンセラーが来校して子どもたちの心のケアに細心の注意を払っているそうです。大震災からもうすぐ2年。この間に国内はもとより世界各地から励ましのメッセージが学校に届きました。校長先生は「今日頂戴した支援金は子どもたちのために有意義に使わせて頂きます」と感謝の言葉とともにわれわれを見送ってくださいました。



訪問を終えて海岸に出でみると、東京近郊では見ることのない真っ青な海が広がっていました。永崎小学校の子どもたちの多くはきっとこの海で楽しい思い出をたくさん作ったに違いありません。砂浜を元気に走り回る子どもたちの姿が午後の日差しの中に浮かんで見えました。(平田栄一=協会会員)

【訪問者】初鹿野惠蘭理事長、近藤鈴一、佐々木英介、木本一彰、平田栄一



東日本大震災支援交流プロジェクトについて

2011年3月11日、日本を襲った未曾有の大災害に、雲南の市民や支援校児童からたくさんのお見舞いが届きました。「今度はわたしたちが助ける番」—子どもたちの心もこもった激励のメッセージや、市民の皆さんからの募金には、たとえ額が小さくとも日本の兄弟を想う本当の真心が詰まっています。遙か雲南の山奥から届いた思いやりの心を被災地の子どもたちへ伝え、少しでも励ますことができたら—そんな気持ちから、協会は独自の支援交流プロジェクトを立ち上げ、雲南の心を被災地の小学校にお届けしてきました。将来的には、互いを励ましあえるような双方向の交流につなげたいと考えています。

◎これまでに雲南からのメッセージと募金をお届けした小学校

2011年5月20日	宮城県女川町立女川第二小学校
2011年7月21日	宮城県亘理町立長瀬小学校
2011年11月30日	福島県南相馬市立木原小学校・鶴原小学校

日本、加油!
(日本、がんばって!)



第15校目木原小学校はミャオ族の学校。
開校式で防ねた原には、女性たちの
独特な髪型が印象的でした



「日本の皆さん、
ありがとうございます!」
第23校目翠華小学校の
子どもたち

お問い合わせは事務局 03-5206-5260 (平日10時~18時)

支援第23校目「翠華鎮中心完全小学校」 待望の新校舎完成!

完成が遅れていた50の小学校プロジェクト

第23校目「翠華鎮中心完全小学校」の校舎が2012年末、とうとう竣工しました。

同校は2005年に5つの小学校が合併してきた地域の中心小学校で、イ族、回族、漢族あわせて1300名余りの子どもたちが学ぶマンモス校。雲南省政府は近年、学校資源の節約と教育水準維持のために小学校の合併を進めており、翠華小学校もそうしてできた学校です。協会が合併校を支援するのは初めてのことですが、今まで以上に多くの子どもが裨益対象者となることから、より

効果的・持続的な支援成果が期待されます。

協会では、翠華小学校の開校式に参加するふれあいの旅を今年5月に実施します。旅では、同校の開校式の他、同じ昭通市内にある支援第15校目「日中友好木杆林区僑心小学校」訪問、昨年9月の昭通地震で被害を受けた小学校への支援金贈呈を予定しています。昭通に住む多彩な民族の子どもたちが、日本の友人の訪れを待っています。皆さんも是非、ふれあいの旅に参加してみませんか。



頓楠先生 人材プロジェクト出前講座 若者に日本の魅力を語る

東京大学研究員の頓楠さんは、雲南省昆明市出身。北京大学を卒業後、日本へ留学し、京大・東大で学びました。日本滞在9年、協会のボランティア歴7年の大ベテランである頓楠さんは昨年里帰りした際、協会「アジア未来への人材プロジェクト」の講師として自身の日本観を語り、日本語を学ぶ後輩たちへエールを送ってくれました。



急な告知だったにも関わらず、教室は学生でいっぱいです。

自ら体験した「本当の日本」を伝えようと、頓楠さんは昨年11月16日、雲南大学濱池学院を訪問。東日本大震災や現在の日中関係を初め、留学生生活、協会の活動などについて2時間に渡って熱弁をふるいました。

教室につめかけた54名の日本語専修生にとって日中の最高学府で学び、日本で活躍する同郷の先輩の話を聞けるのは頗ってもない機会です。講演後はひっきりなしに質問が飛び交いました。これまで学校の先生以外から留学経験談を聞いたことがなく、日本語を勉強するとどんな未来が開けるのか、なんとなく不安を抱いていた学生たちにとって、頓楠先輩の話は大きなヒントとなったに違いありません。

「海外に出れば考え方の違う人に出会える。」力強く語る頓さん



25の小さな夢基金

「夢にゴールはありません。」

少数民族の女の子たちを応援する「25の小さな夢基金」。2010年に昆明女子高校を卒業した夢基金生・賀金菊さんは、一度は挫折を味わうものの、決して諦めることなく努力を続け、昨年無事に志望大学に合格しました。現在、昆明市内で大学生生活を送っている賀さんの手記をご紹介します。

高校3年間、必死に勉強したものの、私は志望していた一流大学に落ちてしまいました。夢や希望は一瞬にして消え去り、不公平な運命を恨みました。私は浪人することを選び、週末には家に戻って両親を手伝いました。母は少しづつ体調を崩していました。

ある日母に電話すると、弱弱しく電話を切るように促されました。父に聞くと、母は過労で鼻血が止まらなくなり、救急車で運ばれたのです。私は体中の力が抜けました。病院に駆けつけた私に、母は「大丈夫よ。あなたは授業に出なさい」と微笑みました。母の足には輸血の針が刺さっていました。腕にはもう針を刺す所がなかったのです。

予備校を1日休んで付き添い、母が老いていることに今更気付かされました。「母を喜ばせるためにも、一生懸命勉強しなければ」検査の結果、母は腎臓が弱っていました。

私は二度目の受験で志望校に合格しました。専攻は国際貿易。学資を借りに行った時、親に付き添われた友人の姿を見て、自分の親は以前のように私の面倒を見られなくなつたのだと悟りました。これからは自立し、両親の面倒を見なければなりません。

母の体調は徐々に良くなっています。私も頑張って母の期待に応えたいと思います。雲南師範大学で学べる貴重な機会を無駄にはしません。大学は夢のゴールではないのです。いい仕事を見つけ、家族を楽にするという夢をかなえるため、もっと努力します。

（賀金菊=「25の小さな夢基金」第3期生）

少数民族の女子高校生を応援する「25の小さな夢基金」では、サポーターを募集しています。

詳細は同封のチラシをご覧ください。皆様のご協力、お待ちしております。



日本の皆さんのご支援のお陰で、無事に高校を卒業しました。自民族リス族の衣装をまとめて卒業式に参加した賀金菊さん（右端）。

アジア未来への人材プロジェクト

雲南の学生たち、憧れの日本へ！

通訳ボランティアとして、協会の現地活動になくてはならない存在の学生たち。昨年6月には日本のビジネスナーについて学びました。



今年の夏、雲南大学濱池学院で日本語を学ぶ10人の学生が、日本で実地研修を行うことになりました。日頃からイベント準備や翻訳作業、通訳など幅広く活動し、もはや雲南での協会活動には欠かせない大学生ボランティアたち。そんな学生たちへ、日本語能力を生かす場や等身大の日本を知る機会を提供しようと、

昨年、協会「アジア未来への人材プロジェクト」が発足しましたが、この度、学生や大学からの強い要望を受け、プロジェクトの一貫として日本での実地研修を実施することになりました。研修では、生の日本を知り、将来に生かせる経験をしてもらうため、協会独自のネットワークを駆使し、企業訪問や職場体験、ホームステイ、日本の大学生との交流などが行われる予定です。研修を通して、学生たちの日本への理解がより深まるだけでなく、将来日本で働きたい、日本と雲南をつなぐ仕事をしたいという意欲も増すに違いありません。企画実現には会員の皆様のご協力も欠かせません。将来の日本と雲南をつなぐ若者との交流に、ぜひお力添えをお願いいたします。

你好已年！ 新しい年に 縊ますます深まる

1月4日～8日
昆明出張報告

年明け早々初鹿野惠蘭理事長が昆明を訪問し、来年度事業について関係者と協議しました。「25の小さな夢基金」の昆明女子高校では、日本語の授業を始めるなどを正式に決定。1・2年生の選択授業として、3月16日から毎週土曜日に行います。講師を担当するのは平田栄一雲南特命部長です。「ようやく実施が決まり、たくさんの生徒が喜んでいます」と史雲波校長。同校では、夢基金のサポーターからお預かりした春節のお手紙やプレゼントの一部を、理事長が直接生徒さんに届けました。

また、雲南大学濱池学院の高明先生、譚盈盈先生とも会い、昨年11月から延期されていた学生フォーラムを今年5月に開くことを確認。本格始動した「アジア未来への人材プロジェクト」では、日本文化理解研修やインターンシッププログラムに加え、日本での短期研修を行うことになりました。2013年、現地大学生と協会の縊はいよいよ深まります！



協会と共に「春節クラス」を支援する雲南省婦人聯合会・方敏秘書長（左）、史雲波校長（中央）は、日本のサポーターから生徒への贈り物に感激

冬季も無事終了！ 雲南支部事務局 バソターンシッププログラム

昨年夏に続き、今年1月にも協会雲南支部事務局でインターンシッププログラムを実施しました。今回参加したのは雲南大学濱池学院日本語専修生4名。それぞれ2週間のプログラムでは、翻訳作業体験や企画立案実習などをを行い、とても充実したものになったようです。

雲南大学濱池学院日本語学科3年 葉芝南さんより
(インターン期間：1月7日～18日)

インターンシップの機会をくださり、本当にありがとうございました。期間中、たくさんのこと学びました。

一番重要なのは、自分の日本語のレベルの低さに気付いたことです。このままでは卒業後、日本語で仕事をできません。だから、必ず必死に頑張ります。

最終日に東京本部とテレビ会議を行い、私たちインターン生が作った日中交流の企画を発表しました。初鹿野理事長は私たち、「この協会が発展し続けるためには、若者のサポートと支援が重要です。能力のある若者にたくさん参加して欲しい。あなた方に感謝しています」と言って下さいました。

テレビ会議を通じ、皆さんはずっと努力しているのに、自分だけ人生をサポートしていたのだと思いました。誰もが自分のやったことに最後まで責任を持っていました。2週間のインターンシップで大きく成長できたと思います。



◀毎週行う東京本部との
テレビ会議にも
欠かさず参加しました

にっこり!
インターン修了
証明書をもらつて



初鹿野先生が行く! 江戸川区で異文化体験授業!

江戸川総合人生大学は、これまでの人生経験や知識を活かして社会貢献を志す皆さんを応援するために、江戸川区が設立した学びと実践の場です。各国の文化・事情や在住外国人の抱える問題などを幅広く学ぶ同学国際コミュニケーション学科の授業で、先日、当協会初鹿野理事長が講師を務めました。

「地球市民として生きる—日本と雲南をつなぐ教育支援活動」をテーマとした授業は、1月16日午後からの文化センターで行われ、今回の橋渡しをしてくださった同学OBで協会員の山本忠明さんも含む25名の聴講生が参加しました。当日は、協会の10年の歩みをまとめた映像の放映や初鹿野理事長の講義の他、ブーアル茶の試飲や少数民族舞踊体験等を行い、協会らしさの詰まった2時間の異文化体験授業は瞬く間に終了しました。



第一回の人生に恩恵的な皆さん。
これを機に是非雲南に興味を持つくださいね!

今年もさいたまが熱い! 大宮支部新年会のご報告

毎年活発に活動を展開する協会大宮支部。

今年も年明け早々の1月6日、大宮支部長宅で「新年の会」が開かれ、早速2013年のスタートが切られました。

当日は会員・ボランティアの皆さん19名とお子さん6名の計25名が参加、2012年の活動報告及び2013年の活動について話し合いが持たれました。会議の後は例年通り支部長お手製の絶品雲南料理がふるまわれ、夕方まで盛り上がる楽しい新年の集いとなったということです。支部では、今年も6月にさいたま市内で協会巡回写真展「笑顔を君に」を開催する予定です。どうぞ楽しみにお待ちください!



今年も協会大宮支部をどうぞ宜しくお願いいたします!

2013年も宜しくお願ひいたします 中国大使館新春招待会

1月25日、中国大使館で開催された程永華大使主催の新春招待会に、招待を受けた初鹿野理事長と東京本部職員1名が参加しました。

会場では昨年末のチャリティー忘年会にご参加くださった領事部の溥剛一等書記官や劉亞明総領事と再会。溥書記官は協会の活動に感銘を受け、大使館に戻ったのちにあちこちに宣伝してくださいました。昨年の赴任以来なにかと協会活動をサポートしてくださっている劉総領事も、「協力できることがあればいつでもご連絡ください」とのこと。協会は2013年も各方面と連携しながら、教育支援活動に邁進したいと思います。



日頃から協会活動を応援してくださっている
劉亞明総領事(中央)と
久々の再会

TOPICS

年明け1月から2月にかけて、協会事務局職員5名が東京都主催NPO向け無料研修のうち18講座のべ122時間に参加しました。研修のテーマは広報誌製作からプロジェクト運営、資金調達戦略まで様々。活動を支える基盤をより確実なものにするため、職員一丸となって頑張ります!



イベント情報

全国巡回写真展 「笑顔を君に」 in JICA 地球ひろば

主催: 日本雲南聯誼協会
日時: 2月11日(祝)~23日(土)
場所: JICA 地球ひろば
(東京都新宿区 緊広尾より市ヶ谷に移転しました)

アースデイ東京 2013

主催: アースデイ東京2013実行委員会
日時: 4月20日(土)~21日(日)
場所: 代々木公園(東京都渋谷区)

さいたま国際友好フェア 2013

主催: さいたま観光国際協会/さいたま市
日時: 5月3日(祝)~4日(祝)
場所: 市民の森・見沼グリーンセンター(埼玉県さいたま市)

第23校目開校式 ふれあいの旅

主催: 日本雲南聯誼協会
日時: 5月4日(祝)~10日(金)
場所: 雲南省昭通市

合同写真展

「アジアの子どもたち」

主催: 日本雲南聯誼協会
21世紀のカンボジアを支援する会/他
日時: 6月6日(木)~9日(日)
場所: 八王子学園都市センター第2ギャラリーホール
(東京都八王子市)

全国巡回写真展

「笑顔を君に」 in さいたま 3rd

主催: 日本雲南聯誼協会
日時: 6月
場所: さいたま市市民活動サポートセンター
(埼玉県さいたま市)

編集後記

先日、いわき市を訪れました。驚いたのは海沿いに真新しい住宅が並んでいたことです。宅地の取得難などの問題もあるとは思いますが、やはり自分たちが生まれ育った場所を離れがたく、もう一度そこから故郷を再建しようという決意を垣間見た気がしました。協会が行っている支援も、つまりは村おこしの手伝いです。山奥の小学校で勉強の機会を得て、さらに昆明で勉強している子どもたちの共通する思いは、まず家族を、そして故郷の村を豊かにすること。故郷を愛する思いはどこも同じなのだと思います。(編集長・木本一彰)

南里会員の「悠とぴあ」便り 新連載!

長年会員として協会を応援してくださっている南里稔さんが雲南省昆明市に居を構えたのは10年余り前。協会雲南支部の事務局長として現地活動を支えてくださったこともありました。この新連載では、現地に深く根を下ろす南里さんでの視点で捉えた「等身大の雲南」を日本の皆さんにご紹介して頂きます。

雲南在住会員の南里です。

マンションの契約更新を断られ急遽部屋探しから引越し、やっと昨日引越し完了、インターネットも开通して一息ついた所です。

最初のアパートは文林街の有名小学校の近く、大家が息子の小学校入学の為買っていた所で入学と同時に追い出され、7年住んだ今回のマンションは昆明一中の傍でやはり娘さんの通学の為、契約更新を断られました。

孟子三遷の教えもありますが、一人っ子政策の中国では子どもの教育の為、有名進学校の学区にマンションを買うのも当たり前なんですね。近くに学校もない辺地の少数民族の子どもたちと、つい比べてしまします。

そう言えばかく言う私も勝手に飛んで来てもう11年、カモメと一緒にシベリアから飛来して越冬する昆明のカモメたち。大空を羽ばたき自由に住まいを選べる

◆遠いシベリアから飛来して越冬する昆明のカモメたち。大空を羽ばたき自由に住まいを選べる

★25 雲南を彩る の星たち

連載第25回 ワ族の春節

私たちワ族は、春節を「勒薩」と呼び、村人全員で大掃除し、おいしい食事や酒、祭服を準備してその日を迎えます。いちばん賑やかになるのは、村のひろばにある「考崗司」という祭壇。ルサ1日目の夜、村長がひろばで新しい年の始まりを宣言すると、若い男性が考崗司に火を付け、簫を合団に歌い踊り始めます。簫が止むと別の楽器の演奏が始まり、踊りのリズムも変化して、みんなが音楽の中へ溶け込んでいきます。歩き始めたばかりの赤ちゃんだって体を揺らし始めるんですよ。

2月10日は春節(旧正月)!
夢基金卒業生の陳紅さんが、
自民族の春節を紹介してくれました

2日の朝には、村中から餅をつく音
が聞こえます。餅つきの後はお年寄り
が祖先の魂を呼びこみ、家族揃って朝
ごはん。年長者を敬う私たち民族の伝統です。

ルサの期間中、毎晩深夜まで宴が続きますが、最終日には、民族の歌や踊りを披露する芸能大会が開かれます。そうやって新しい1年が自信と喜びに満ち溢れるよう願いをこめています。



昆明レポート●●●●●



理事長が出張で昆明に来るたび、色々と思われる。先日は、自分が『日本人として日本の魅力を語れない』ことに気づかされました。理事長は日中両国のこととを熟知すると同時に、日本人の人々や文化に心から感動した経験があります。だからこそ相手を圧倒するほど日本の魅力を語り、共感を得られるのです。一方、私は昆明に赴任してもうすぐ1年。中国についての発見はたくさんあっても、日本のこととを深く考えたことがありませんでした。でも、日本の魅力を情熱的に語れないのは悔しいのです。今後、春蘭クラスで日本語授業も始まり、日本について語る機会はますます増えています。日本の魅力を理解し、それを中国の人々へ伝えることを日中友好への小さな貢献なので、決意を新たにしました。(雲南支部職員)